

令和3年10月25日（月）
令和3年度第2回始良・伊佐保健医療圏
地域医療構想調整会議
<資料2-②>

【南九州病院】

- ・ 公立医療機関等 2025 プラン（H30.11.15 調整会議で合意済）

● 独立行政法人国立病院機構南九州病院

① 地域での役割

- 肺癌，慢性呼吸器不全を中心とした呼吸器疾患診療の始良・伊佐医療圏の中核施設
- 県内の肺結核及びエイズ併発の結核患者の診療拠点病院
- ALS，パーキンソン病及び筋ジストロフィー症等の神経難病医療の拠点病院
- 脳性麻痺児の早期診断，早期治療を推進する小児慢性疾患基幹施設
- 重症心身障害児（者）及び発達障害児（者）に対する診断・治療を担う
- 小児科及び神経内科領域の遺伝性疾患についての遺伝相談の実施
- 地域がん診療連携拠点病院として，手術，化学療法，放射線治療のがん医療を担う
- 緩和ケアを中心としたがん患者の終末医療を担う

② 他の医療機関との連携状況

- ・地域がん診療連携拠点病院としての地域医療機関との連携
- ・神経，筋難病，発達障害などに関して，県内の保健・医療・福祉及び教育機関との連携
- ・呼吸器疾患の中核施設としての始良・伊佐地区の地域医療機関との連携

③ 今後の課題

- 地域がん診療連携拠点病院として，胃がん・大腸がん・肝臓がん・乳がんの診療は重要であり，外科医師の確保が課題
- 医師不足と高齢化，看護師他の医療スタッフ確保には，財政的問題もあり，救急体制の充実が図れない。
- 発達障害患者を成人期においても小児科医が継続診療しており，新規患者の受入れの増加に対応する為にも，成人科への移行が課題となっている。
- 重症心身障害児（者）の待機者があり，基幹病院からの新生児受け入れも増加しているが，現在満床の状態にある。
- 結核病床を平成26年にユニット化し，20床で運営しているが病床利用率は平成28年度51.0%と低く病院経営を圧迫している。
- 外来化学療法室，救急処置室，発熱外来の環境整備が不十分な状況である。

④ 今後の方針

- 今後持つべき病床機能
 - ・呼吸器疾患における感染症病床
 - ・循環器科，消化器内科の急性期機能
 - ・小児発達障害児（者）に対応する増床（慢性期機能）

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	0	→	0
急性期	150		120
回復期	0		0
慢性期	275		305
(合計)	425		425

結核病床は除く

結核病床は除く

- ・ 病棟機能の変更理由：
 - (1) 重症心身障害は満床の状態が続いており、今後のニーズに対応するため急性期機能から転換
 - (2) 結核病床は利用率低下、今後も患者数の増加は見込めないため減床
 - (3) 呼吸器疾患における第2種感染症の対応を図り、急性期機能の一部を変更
- ・ 病棟の改修、新築の要否：
 - (1) は不要
 - (2) は結核ユニットの仕切の改修工事を要する
 - (3) は前室、個室化、外からの通路の整備が必要

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度	(病棟再編) ・ 2病棟45床のうち1病棟に8床と3病棟に3床、計11床を変更、34床を休床 (重心病棟の増床) ・ 休床34床のうち15床を重心に変更 (結核病床の減床) ・ 結核休床30床の返還とユニット4床の減床を県と協議 ・ 結核ユニット仕切の改修 (外来化学療法室、発熱外来、救急処置室の新設) ・ 改修工事の申請	2017年7月実施済み 2017年8月実施済み ・ 県内の結核病床の基準病床数の見直しに伴い、関係者と合意を得る ・ 整備計画を策定	集中的な検討を促進 2年間程度で

【参考】公的医療機関等2025プラン（平成30年11月15日調整会議で合意）

<p>2018年度</p>	<p>(感染病床の新設) ・関係者と協議 ・改修工事の申請</p> <p>(重心病床の増床) ・関係者と協議</p> <p>(外来化学療法室、発熱外来、救急処置室の新設) ・改修工事完了</p>	<p>・病床の必要性について関係者と合意を得る ・整備計画を策定</p> <p>・増床に伴う、人員及び設備の見直し</p> <p>・2018年度稼働</p>	
<p>2019～2020年度</p>	<p>(感染病床の新設) ・改修工事完了</p>	<p>・2019年度稼働</p>	
<p>2021～2023年度</p>			